

4. 現況調査

(1) 立地

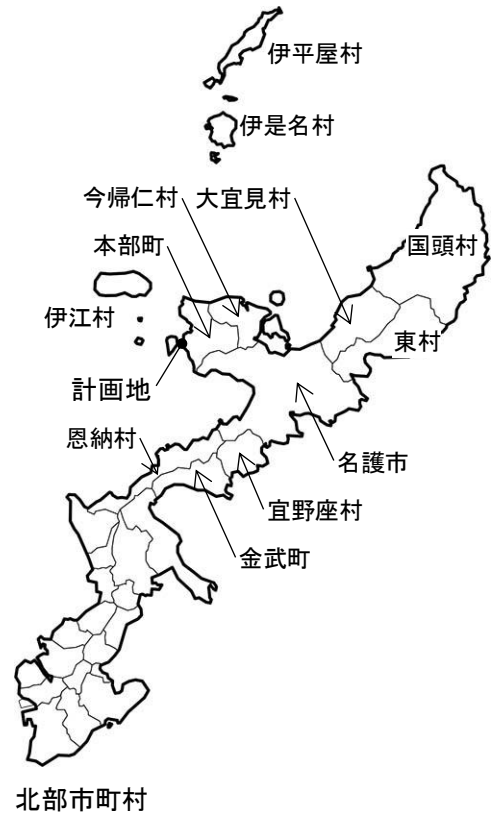
本部港の位置する本部町は、沖縄本島北部を形成する市町村の一つであり、本部町、今帰仁村、名護市の一部からなる本部半島の最西端に位置している。

沖縄本島北部地域は、恩納村、金武町以北12市町村から成り立っており、人口は約13万人、面積は約825km<sup>2</sup>であり、沖縄県全体の人口で9%、面積で36%を占めている。

地形的には平地が少なく比較的山地が多いという特徴があり、ここに広がる、いわゆる“やんばるの森”は、固有種が多く、世界的に貴重な自然環境が残されている。

産業は、農林水産業が基幹産業であり、近年は豊かな自然環境を活用した観光産業も活発になってきている。

本計画の対象地である本部港は、南シナ海に面し、西に伊江島、北に伊平屋島、伊是名島を望むことができる。また、沖縄県の管理する地方港湾として、物流拠点であるとともに伊江島行きフェリーや那覇-鹿児島航路の寄港地にもなっている。



(2) アクセス

本部港は、沖縄本島の玄関口である那覇空港から、沖縄自動車道あるいは国道58号を北上し、約90kmの距離にある。沖縄自動車道を利用した場合、約90分で訪れることができる。

路線バスを利用する場合、高速バス117系統、やんばる急行バス、沖縄エアポートシヤトル及び名護バスターミナル乗り換えで、65、66系統を利用して、アクセスすることができる。

本部港の北方8km(15分)の位置には、沖縄県内で人気の観光地となっている美ら海水族館があり、名護から海沿いの国道449号を利用した場合、その途中に位置している。



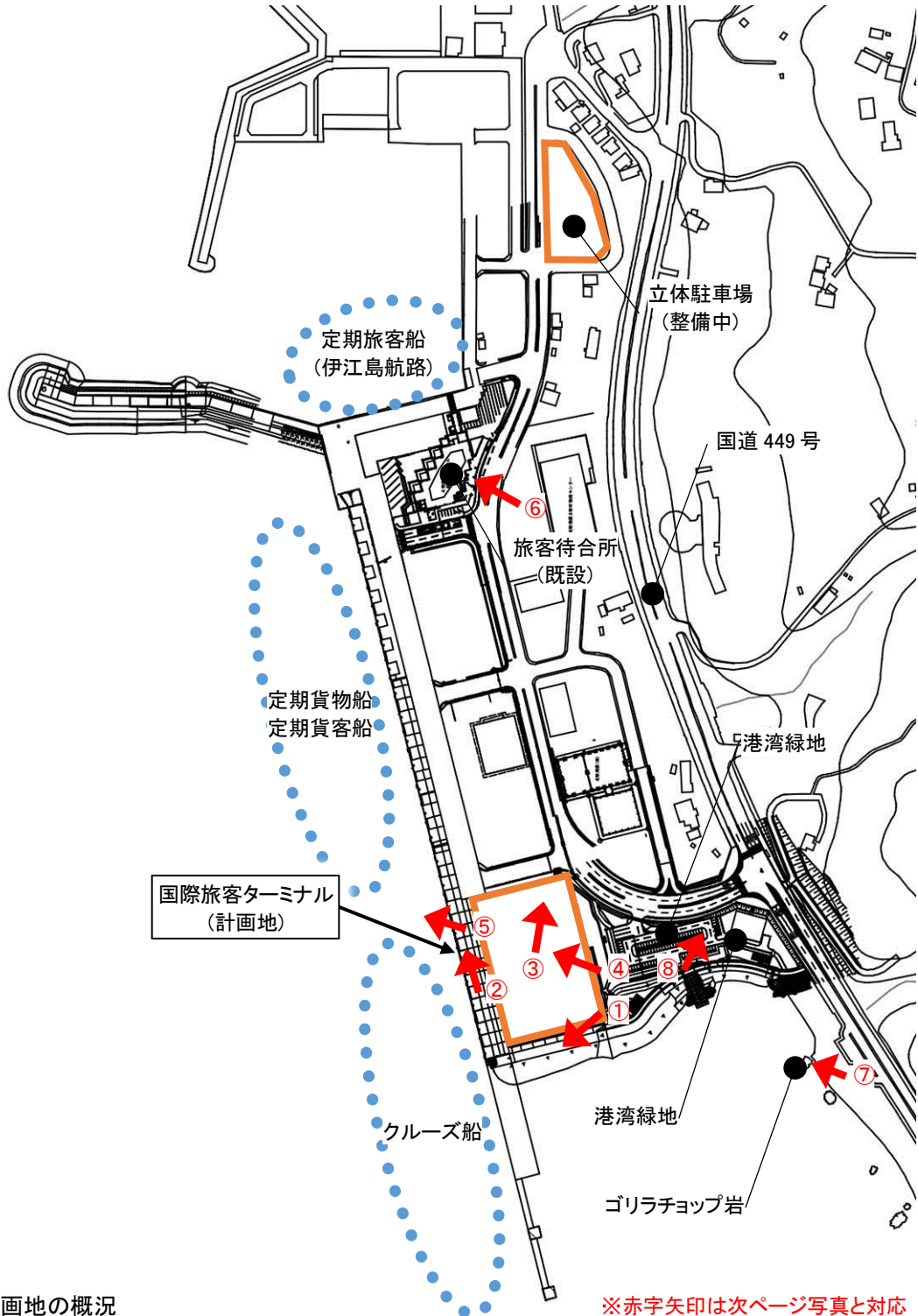
計画地位置図

(3) 計画地及び周辺の現況

計画地は、本部港本部地区(旧本港)の港湾緑地南側にあり、新たに 20 万トン級に対応したクルーズバースを整備中である。また、その陸地側には「官民連携による国際クルーズ拠点」(国交省事業)として、クルーズ船社が旅客ターミナルを整備する計画となっている。

計画地では、本部港と伊江村を結ぶフェリー、那覇-鹿児島航路の寄港地となるほか、物流港としての役割も担っており、県民の生活を支える多くの物資が移出入されている。

また、港湾緑地の南側には、ダイビングスポットとして人気の高い崎本部(通称:ゴリラチョップ)が位置している。



計画地の概況

第1章 基礎調査



①整備中のクルーズバース



②本部港の護岸



③港内のコンテナ置き場



④港内は資材の搬入等で活用



⑤正面の瀬底島



⑥伊江島航路旅客待合所



⑦名前の由来となった“ゴリラチョップ岩”



⑧緑地には多くのダイビング客が訪れる